

経営比較分析表（令和5年度決算）

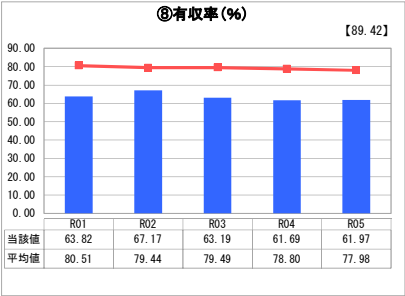
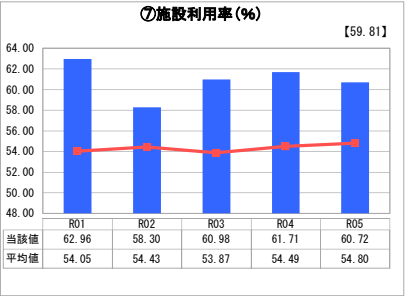
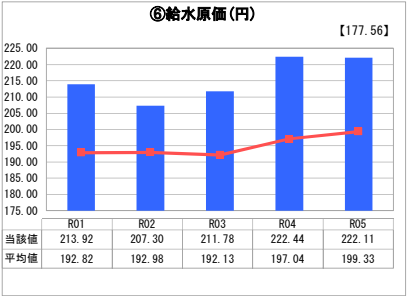
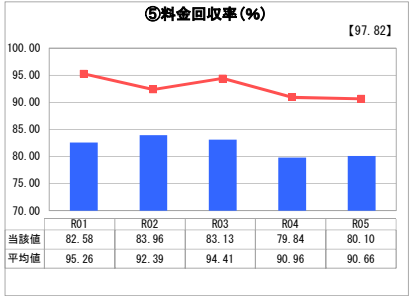
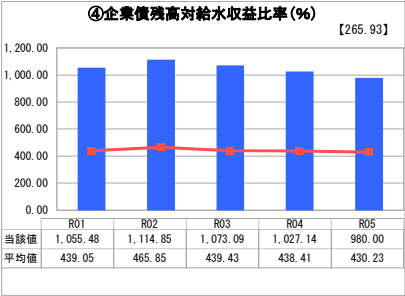
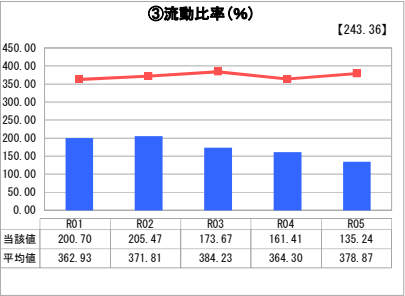
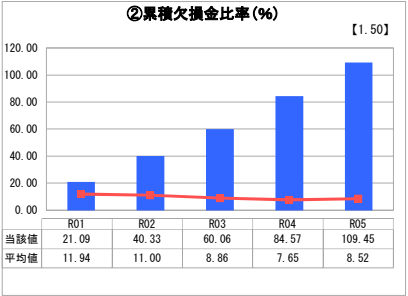
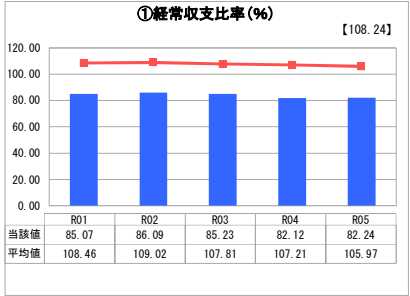
和歌山県 那智勝浦町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	45.42	96.43	2,890	

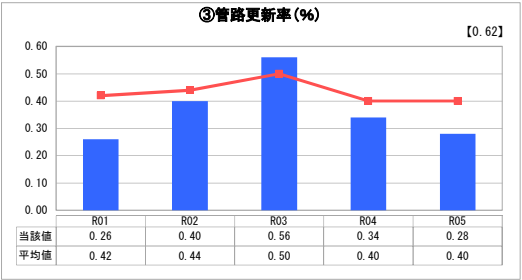
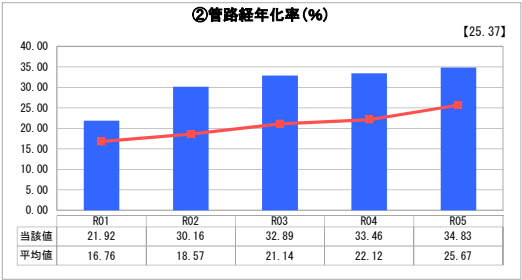
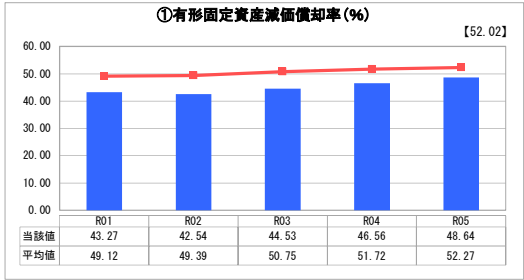
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
13,778	183.31	75.16
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
13,142	77.43	169.73

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

平成24年度から28年度にかけて実施した簡易水道統合整備事業等による借入金、減価償却費の増加に伴い、経常収支比率が100%を下回る状況が続いている。

簡易水道統合整備事業の影響は企業債残高の増加に顕著であり、起債償還の増加により流動比率が減少傾向、給水原価については増加傾向となった。また、有収率が低い状態で推移していることも、経営の健全性・効率性に悪影響を及ぼしている。

累積欠損金について、人口減少の影響から、水道使用量の減少等による営業収益の減と、有収率等によって示されるとおり効率性が低い水準にあることから増加が続いている。

効率性については、簡易水道統合整備事業完了により施設利用率が改善し、現在は60%前後で推移しているが、使用水量が減少傾向にあることから、次回更新時には施設規模を検討する必要がある。また、有収率についても類似団体と比べて低い水準にあることから、今後も継続した漏水調査及び、施設更新が必要である。

2. 老朽化の状況について

昭和50年代の拡張事業により、整備された管路の老朽化が始まっており、管路経年化率が上昇傾向にある。今後も進行していく老朽化に対応するため、施設更新を継続しなければならない。今後も経営の健全性や効率性を加味しながら施設の計画的な更新や長寿命化を検討する必要がある。

全体総括

経営面について、簡易水道統合整備事業や災害復旧事業に加え、慢性的な人口減少、水道使用量の減少、また電力費や材料費等の物価高騰により、経営状況は厳しい状態が続いており、類似団体の平均値の差に見られるとおり改善が急務となっている。

施設面について、類似団体の平均値と比較して企業債残高対給水収益比率が大きく上回っているが、水道水の安定供給や有収率の改善に向け、施設更新は継続していかなければならないことから、厳しい経営状況の中、起債の抑制と施設更新の両立を図らなければならない。

令和5年7月に適正な水道料金のあり方について那智勝浦町長より諮問があり、水道料金審議会において審議した結果、水道料金の増額改定はやむを得ないという旨の答申がなされたため、料金改定を行う予定である。